

病院受付支援システムの構築

025018 石井宏明

(指導教員 速水治夫教授)

1. はじめに

現在、病院に診療を受けに来る初診患者はまず総合受付での受付を済ませてから各診療科の外来受付に行く。しかし、初診患者はどの診療科で診療を受けなければならないのかを自分で判断できないこともあるため、総合受付に尋ねることも多い。一方、総合受付には病気の専門知識を持った人がいない。そこで総合受付に看護師を呼び、その看護師が初診患者から症状を聞き、患者にあった診療科に連れて行くことになる。このような運用では、総合受付・初診患者・看護師のそれぞれに時間的なロスが発生するという問題がある。

本研究は、患者の症状に基づいて診療科を求める看護師の知識をデータベース化し、初診患者自身が操作して診療科を求めるのに役立つシステムを開発することによって、時間的なロスを減らすことを目的とする。

2. システム概要

本システムは画面とその動きに Java、データベースに MySQL を用いて構築した。

本システムは大きく分けると、病院側と患者側、それらを分ける認証の三つに分けることが出来る。病院側の機能として診療科を検索するときに使うデータベースの内容を追加・更新・削除をすることが出来る。患者側では患者自身が自分の症状を入力することによって、行くべき診療科を検索出来る。症状だけで診療科を一つに絞り込めなかった場合は、日々の生活習慣や行動を患者に尋ねることによって、診療科を一つに絞り込む。

システムを起動すると、「目」や「手足」な

ど、区分毎にデータベースを検索し、検索画面を表示する。検索画面を図 1 に示す。

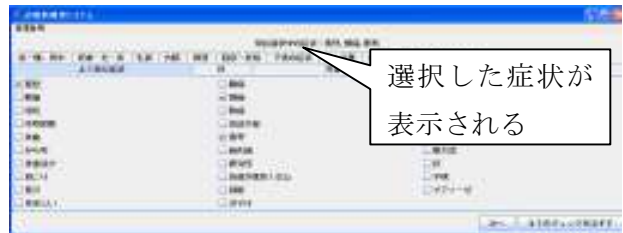


図 1 検索画面

検索画面では、区分毎にタブ分けしているのので、タブが変わっても、入力した症状を忘れないように選択した症状をページが変わっても表示するようにした。

3. 評価

本研究で作成したシステムを実際に病院の総合受付担当者に評価してもらったところ、病院の運用がスムーズになるであろうという意見を得ることが出来た。

4. まとめと今後の課題

初診患者自身が操作して診療科を求めるのに役立つシステムを開発し、評価をしてもらったことによって、総合受付の時間的なロスを減らすという当初の目的を達成する見込みが出来た。本研究では、「激しい痛み」や「鈍い痛み」などの複数の指標を「痛み」という一つの指標にすることによって、症状入力時に患者が迷うことがないように作成した。しかし、単一の指標にすることで検索の精度が低下しまった。今後の課題として、この単一の指標から、「激しい痛み」や「鈍い痛み」などの複数の指標を使えるようにすることで、より精度の高い検索を可能にするという点が挙げられる。